

性差別のない就活 前へ



「#就活セクシズム 署名チーム」のバナー

人生の新たな一步 自分らしい格好で

#スカート 男性にも
△男性の身体に合うスカートの開発が進んだらしい。男性でもそういう格好をするのが許される風潮が広がってほしい

#先生「就活に有利」
△学校のマナー講座で先生に「女の子はスカートの方が好印象で就活に有利」と教えられた

#冷え性 学業に支障
△季節関係なくスカートとハイヒール、ストッキングを強制され、冷え性などがひどくなり学業に支障をきたす人が多かった

「女性が化粧をしないのは失礼」「男性の長髪は不潔」。
「女性うしろ」や「男性うしろ」を押し付ける「セクシズム」が、就職活動（就活）指導の場に根深くあります。人生の新たな一步を踏み出そうとするときに、性差別的なマナーや服装を強いられ、その道をふさがれてしまう人も。そうした現状を変えようと、是正を求める署名活動が行われています。

多くの人が声を上げてきました問題だが、いまだに改善されていない。ジェンダー問題すべての人気が苦しむる問題だと指摘するのは、「#就活セクシズム署名チーム」

同チームは、オンライン署名を2020年11月に開始。

20～40代のメンバーが学業や

仕事の傍ら活動をしています。これまで男女別でステレオタイプな発信をするペーパー販売大手や出版社、就活サイトに署名の抗議文を送つきました。

学生は、採用される側で競争を強いられ、経済的にも弱い立場に置かれています。

「こうしないと落ちる」かのよう指導致されれば、従わざるを得ない状況です。

水野さんは「就活中の人は

声を上げにくい。周りが

「女性は化粧」「男性短髪」… 是正求めて政府に署名提出

声を上げ、変えていかないと語ります。4月25日には、就活指導をする教育機関に対し学生のアイデンティティを尊重することを求め、文部科学省に3万2968人分

の署名を提出しました。今後は、多様性を掲げる企業への働きかけをこれまで以上に強めていく予定です。

「服装や髪は、自分を表現する大事な要素。就職という藤さん（仮名は学生のころ、一度先に就活始めた友人を見てショックを受けたと言いました）のメンバーの佐藤さん（仮名は学生のころ、一度先に就活始めた友人を見てショックを受けたと言いました）は、多様性を掲げる企業への働きかけをこれまで以上に強めていく予定です。

藤さん（仮名は学生のころ、一度先に就活始めた友人を見てショックを受けたと言いました）は、多様性を掲げる企業への働きかけをこれまで以上に強めていく予定です。

本やサイトなどで推奨されるステレオタイプな服装事例

レイアウト 齋藤和音

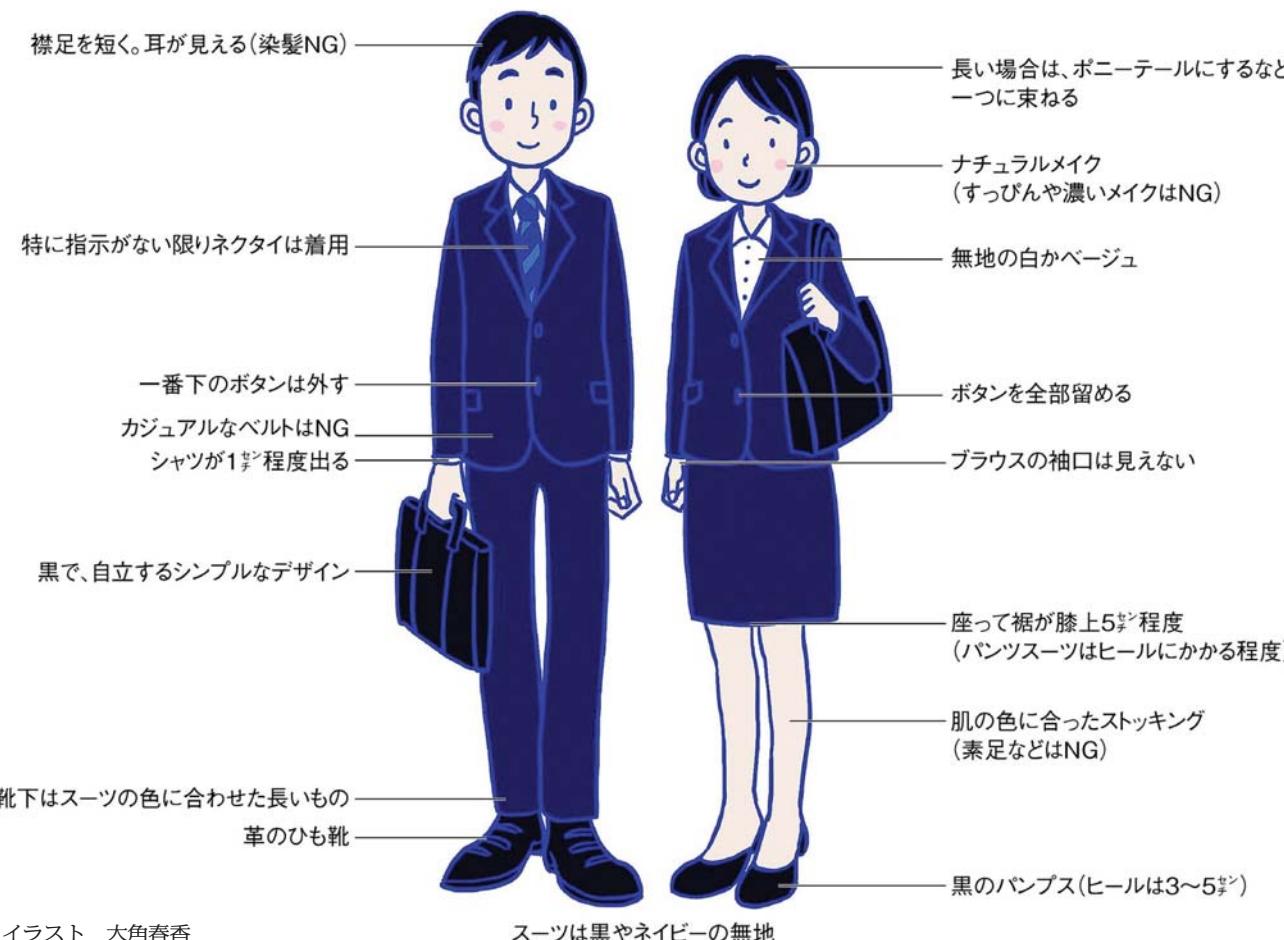


イラスト 大角春香



「#就活セクシズム 署名チーム」がデザインしたカードの表面。裏面には「私たちは男女二元論の就活マナー・男はこう、女はこう」という性差別的な

性差別的な言葉が書かれています。一方で佐藤さんは国家資格を取得し開業。それを機に男性用と同じ仕様のスーツを仕立てる。今は生き生きと働いています。「仕事のために着るスーツを纏めながら、これを着たら『自分はできる』と思える服、自分を応援してくれる服であるべきです。『自分じゃない』『自分自身ではない』『自分自身ではない』と思える服は『着なくていい』と思える服は『着なくていい』と言いたい」とあります。